

音譜不要の打楽器指導方法について

Brasil音楽享受方法の一事例から

加 藤 勲

筆者は2013年から2016年までBrasilに滞在し、Rio de JaneiroのBrasil音楽団体 Monoblocoに打楽器奏者として在籍していた。Monoblocoは楽器未経験者に対して音譜を使わない手法を用いて指導を行い10ヶ月という期間でCarnaval de Ruaと呼ばれるパレードを成功させ30万人を動員し熱狂させた。その手法は非常に有効だと筆者は感じた。その経験を基に報告する。

Monoblocoとは

2000年に発足したBrasil Rio de Janeiroのグループである。5人のボーカル、1人のカヴァッコ¹奏者、1人のギタープレイヤーと160人のパーカッショニストで構成されている。2010年までに100万人に対して演奏し、120回のShowを行い500回の営業を毎年行っている。生徒の数は2006年と2009年に700人、2010年に200人を集めた。現在までに3枚のCDをリリースしている（2002年/2006年/2009年）。また年間に40回のDesfile²を行い、80回のEnsaio³を行っている。一回のDesfileは3時間を超えるものになっている。2001年と2010年のDesfileはトータルで30時間以上、Ensaioは合計で200時間を超える（公式Facebookページより⁴）。

Bateria do Monobloco

Bateria（打楽器隊）はMonoblocoのチームのメンバーではなく一般公募されている。その中にはEscola de Samba⁵のBateriaの一員や楽器未経験者⁶、在伯外国人の参加者もある。応募すると一年分の授業料を収めAula⁷に参加しCarnaval⁸期のDesfileを目標にして活動に取り組む事になる。Aulaは基本的に週1回2時間行われる。Aulaを取り仕切るのはDiretoria⁹達でありMonoblocoのメンバーが行っている。またAulaではMonobloco所有の楽器が使用され、参加者が自ら楽器を用意する必要はない。

Bateriaに応募した人達はAula開始後1ヶ月の間は自由に楽器を選択しAulaに参加し各楽器の特徴を演奏を通して体験する。そのプロセスを経て、自分の担当パートを自らの意思で決定する。ただし、パート毎の定員数は決まっており、定員に達した場合は希望通りとはいかない場合もある。

Bateria do Monoblocoの打楽器は7種類の打楽器で構成されている。Cuíca（クイーカ）¹⁰、

Chocalho (ショカーリョ)¹¹、Agogô (アゴゴー)¹²、Tamborin (タンボリン)¹³、Caixa (カイシャ)¹⁴、Repinique (ヘピニキ)¹⁵、Surdo (スルド)¹⁶から構成されている。また最後の部分に出てくるSurdoは、さらにSurdo de 1a (スルドヂプリメイラ)、Surdo de 2a (スルドヂセグンダ)、Surdo de 3a (スルドヂテルセイラ)と3つに分かれ、1→2→3の順に規模が小さくなる。この打楽器構成はEscola de Sambaの標準的な打楽器構成となっている。各楽器の基本フレーズは音譜で表すと以下のようになる。

Cuica (クイーカ)



Chocalho (ショカーリョ)



Agogô (アゴゴー)



Tamborin (タンボリン)



Caixa (カイシャ)



Repinique (ヘピニキ)



Surdo de 1a (スルドヂプリメイラ)



Surdo de 2a (スルドヂセグンダ)



Surdo de 3a (スルドヂテルセイラ)



Aula do Monobloco

Monoblocoの開催するAulaは基本的に週に1回開催される。その1回のAulaは2時間で一晩に2コマ開催されている。2016年にSaoPauloで活動を始め、Bateriaの一般公募を開始したその年は2コマの授業内容は同じものであったが、2017年のAulaはTurma1¹⁷とTurma2に分類され、前年から参加し、しっかりと演奏のできるものはTurma2へ、新規参加者と演奏があまりできなかったものはTurma1へと分けられた。

Diretorias do Monobloco

Monoblocoの構成は最初に述べたが、Bateriaに関係する構成について触れる。Bateriaには各パートがあることは先に書いた。その各パート毎に3人のDiretor¹⁸が配置され、メインのDiretorとサブのものに分かれる。そしてBateria全体をまとめるMestre¹⁹が存在する。

配布資料

楽器未経験で、義務教育に音楽の授業を持たない参加者を一年間のAulaでDesfileができるようにする為に配布される紙資料と映像資料がある。紙資料はパート毎の内容となり、参加者は他のパートの演奏内容はAulaで聞くまでは知らないという事になる。紙資料には楽譜は用いられずに数字とアルファベットの濃淡だけで構成されたものになっている。この図は左から右に向かって読む。図の濃い文字で書かれている部分は演奏し、それ以外の場所では音は出さない。映像資料は紙資料で表しているものを各Diretorが録画したものが配られ、この2つの資料をもとにBateria達はAulaへ向けてフレーズを覚えることになる。紙資料の一例としてSurdoの各パートの基本フレーズを挙げる。

Surdo de 1a

1 2 ③ 4

Surdo de 2a

1 ② 3 4

Surdo de 3a

1 t t ② ta t ③ t t 4 t ta a

Aulaでの指導方法

基本的にフレーズをその場で教える事はなく、パート毎の合奏、他パートとの合奏に照準を合わせ、合奏していく。MestreはBateria全体の指揮を行い、Diretorはパート毎の指揮を行う。また、配布資料内には基本フレーズの他にSinal²⁰を出し、Bateriaは提示されたSinalに従いそのフレーズを奏でる。こうした進行の中でDiretor達はBateria達の演奏方法や、フレーズの覚え間違いを指摘していく。また、フレーズをリズムカルにする為にMarcação de pé (マラカサオンヂペ)²¹と呼ばれる単純なステップを用いてBateria全員のリズムの統率を行う。ステップは頭拍で足踏みをしなから右足→左足→左足→右足と順番にステップを踏み、前半部分で前に進み、後半部分で後ろへと下がる。こうすることで、フレーズの前半後半が乱れたものやフレーズ演奏時にMarcação de péを止めてしまった者は一目瞭然になり、その者に対して指導が行われる。他パートのフレーズを知らない参加者達はこのMarcação de péを用いて覚えたフレーズをリズムカルに責任をもって演奏する事で、しっかりとした合奏をする事が可能になっている。また、Bateria全体が同調し揺れ動く事で、見た目にもリズムが揃い、動き踊りながら太鼓を打つパフォーマンスにもつながり、観客へ高揚感が伝わり広がっていく。

紙資料、映像資料の汎用性

筆者はこの指導方法を応用し、日本語で資料を作成し、楽器経験がなかったり、経験が少ないものに対して2017年10月27日に板橋区の生涯学習センターにてドラム講座、2017年8月から11月までに6回板橋区の学習施設「まなぼーと成増」でSamba Percussion (サンバパーカッション) 講座を行った。

ドラム講座の参加者は12名で平均年齢は60歳前後。ドラム経験者は1人であった。2時間の講座で全員がテンポを落とした音源と共にドラム演奏が出来るまでになった。パーカッション講座は未就学児童とその親、また高齢者が参加する講座で平均参加人数は10人ほど。1時間30分の講座の中で、未経験者は楽器を一から取り組むが、最後にはそのパーカッションを用いて全員で合奏が出来るまでになった。合奏にはMarcação de péが非常に有効だった事も記しておきたい。この二つの講座ではMonoblocoで例を挙げた映像資料は用いずに紙資料を筆者が応用したのものを使い講座を行った。例としてドラム講座に用いた応用資料を挙げる。

間奏 & サビ!

右手	① と ② と ③ と ④ と (ハイハット)
左手	① と ② と ③ と ④ と (スネア)
右足	1 と 2 と 3 と 4 と (バズドラム)
左足	1 と 2 と 3 と 4 と (ハイハット)

まとめ

一般的な義務教育課程の必修科目に音楽教育カリキュラムのないBrasilでの楽器未経験者へのMonoblocoのAula、そして日本での楽器未経験者への講座の事例から、紙資料とMarcação de péを取り入れた享受方法は、音楽演奏技術習得に対して有効であると言える。音譜を必要としないこの手法は音楽教育の有無は関係ない。一年でDesfileが可能なまでに未経験者を成長させ成功に導く事が可能なものであった事例からも有効であると言えるだろう。

〈註〉

- 1 SambaやChoroなどに使われるブラジルの弦楽器。Cavacoと表記される。カヴァキーニョ (Cavaquinho)という通称名で呼ばれる事が多い。
- 2 Brasilに於けるパレードの意。音響車を用意し弦楽器や歌はトラックの上で演奏し、打楽器隊、指揮者はトラックの前で演奏する。
- 3 観客に見せる趣旨の公開練習。チケット代が設定されていて、日本で言うところのライブに近いものとなっている。
- 4 https://www.facebook.com/pg/monoblocooficial/about/?ref=page_internal (2017年10月31日閲覧)
- 5 直訳するとサンバの学校となるが、Brasilでの意味はSambaチームである。
- 6 Brasilの義務教育には音楽の授業が無い為に、楽器未経験者が多く存在する。
- 7 授業
- 8 『①謝肉祭。②転じてお祭り騒ぎの催し。』(広辞苑 第六版2008年450頁)とあるが、日本で一番の規模のサンバイベントに“浅草サンバカーニバルコンテスト”とカーニバルという文言が入るものの8月に開催されている事や、“〇〇カーニバル”等のイベントは多数存在し、謝肉祭とは関係のない内容のものが多数を占めている事から今日の日本では②のお祭り騒ぎの催しという認識が強いと言える。ブラジルではほとんどの場合、謝肉祭の前後の時期の催しに“Carnaval”の文字が用いられる。
- 9 指揮者又は固有打楽器のリーダー
- 10 膜鳴楽器だが、膜は打たず、膜に取り付けられた竹ひごを濡れた布で親指と人差指とで挟み摩する事で竹ひごを振動させ、その振動は膜に伝わり音が出る。膜は山羊革で作られる事が多い。
- 11 木製の平たい棒状のものに釘を用いてジングルを取り付けた振って音を鳴らす楽器。ジングルとは円形の金属製の板の事でタンバリンに付属している金属板の事でもある。釘一本に対してジングルは5、6枚取り付けられ棒の両端にその釘は打たれている。片側5本ずつジングル付きの釘が打たれている事が標準的。
- 12 金属製の楽器で円錐形に加工されたベル2つ、もしくは4つ繋がっている楽器。スティックで演奏され基本的に手で持って演奏される。
- 13 6インチの大きさでナイロン製の膜を取り付けた片面打楽器。筒はアルミ、ジェラルミン、木材で作られる事が多い。山羊革で膜を取り付けた物も存在する。
- 14 口径は12インチから14インチが一般的であり、巻弦を打面に4本から6本沿わせ、歪んだ音を響かせる。特徴として響き線が沿わせてあるほうの膜をスティックで打ち演奏する。
- 15 口径は12インチから14インチが一般的で片手は素手、片手にスティックを持って演奏する楽器。
- 16 Sambaで用いられる大太鼓。膜は山羊革を張られる事が多いがナイロン製のものも存在する。マレットと呼ばれる木の棒の先端に布を巻いたもので演奏され低音を出す役割を担っ

ている。

17 Turmaとはチームという意味。Monoblocoの中ではLevel1、Level2の様に使われた。

18 パートを指揮したり、演奏方法を教えたりする統率者。メインのDiretorがパートのフレーズを決める。

19 Bateria全体の指揮者、統率者。

20 サイン

21 Escola de Sambaでも用いられる手段。

(かとう いさお 本講座受講生)